

レクチャー及び資料配布の場所・日時

1. 筑波研究学園都市記者会(資料配布)
2. 国土交通記者会(資料配布)
3. 国土交通省建設専門紙記者会(資料配布)

日時：平成28年1月29日(14:00)



国立研究開発法人土木研究所『共同研究者の募集』について (河道内植生の管理技術に関する共同研究)

国立研究開発法人土木研究所では、平成28年度新規に実施する以下の共同研究について、共同研究者を募集しますのでお知らせします。なお、研究内容等の詳細につきましては、担当チームにお問い合わせください。

1. 土木研究所が提案する共同研究 (土研提案型：公募共同研究)

河道内植生の管理技術に関する共同研究 (詳細は別添-1)	平成28年6月(予定) ～平成30年12月
担当：水環境研究グループ 河川生態チーム	
共同研究の目的(必要性)	
<p>土木研究所が開発した河道内植生動態モデルを、河川管理実務での経験が多い建設コンサルタント等と共同で改良及び簡略化を行う。</p> <p>改良の段階においては、河床変動が考慮されていない現状の植生動態モデルに河床変動過程を組み込むこと、その後、河床変動を組み込んだ植生動態再現を行う。同時に、複雑な変化を伴う植生動態の現状を正確に把握すること、及び、植生動態モデル計算条件の再設定・データ同化のために、UAVを用いた植生動態観測技術の開発を行う。これらの検討は、主に二次元化した状態で行う。次の簡略化の段階においては、河川管理実務で一般的に用いられる1次元流下能力検討の流れを参考に、一次元計算(準二次元計算)で、上記の植生動態モデルを簡便に再現する手法の開発を行う。</p> <p>これらの研究を通して、研究段階の植生動態モデルの高度化・実用化を図るとともに、簡略化を図り河川管理の実務への適用を促す。この結果として、土木研究所は研究成果の最大化を図ることが可能となるとともに、共同研究参加者は、河道掘削断面の計画の策定業務、維持管理計画の策定業務(河道内植生管理)におけるより高度な提案、業務の効率化が可能となる。</p>	
共同研究の内容	
<ol style="list-style-type: none">(1) 植生動態モデルの高度化のための二次元河床変動計算モデルの改良(2) 二次元河床変動計算を組み込んだ植生動態モデルの改良(3) UAVを用いた地形・植生観測技術の開発(4) 植生観測データを用いた植生動態モデルの検証・データ同化技術(改良型植生動態モデル)の開発(5) 改良型植生動態モデルの簡易化に関する研究	

2. 募集期間 **平成28年1月29日(金)から平成28年2月29日(月)17:00まで**

3. その他 土木研究所の共同研究制度の概要や申請書等の様式につきましては、土木研究所ホームページ(<http://www.pwri.go.jp/>)に掲載しております。

問 い 合 わ せ 先	
全般的なことについて	国立研究開発法人土木研究所 企画部 研究企画課 課長 大住 道生 主査 古田 佳吾 電話 029-879-6751
研究内容について	国立研究開発法人土木研究所 水環境研究グループ 河川生態チーム 上席研究員 萱場 祐一 主任研究員 傳田 正利 電話 029-879-6775

別添－1

1. 共同研究の名称

河道内植生の管理技術に関する共同研究

2. 共同研究の概要

< 共同研究の目的 >

土木研究所が開発した河道内植生動態モデルを、河川管理実務での経験が多い建設コンサルタント等と共同で改良及び簡略化を行う。

改良の段階においては、河床変動が考慮されていない現状の植生動態モデルに河床変動過程を組み込むこと、その後、河床変動を組み込んだ植生動態再現を行う。同時に、複雑な変化を伴う植生動態の現状を正確に把握すること、及び、植生動態モデル計算条件の再設定・データ同化のために、UAVを用いた植生動態観測技術の開発を行う。これらの検討は、主に二次元化した状態で行う。次の簡略化の段階においては、河川管理実務で一般的に用いられる1次元流下能力検討の流れを参考に、一次元計算（準二次元計算）で、上記の植生動態モデルを簡便に再現する手法の開発を行う。

これらの研究を通して、研究段階の植生動態モデルの高度化・実用化を図るとともに、簡略化を図り河川管理の実務への適用を促す。この結果として、土木研究所は研究成果の最大化を図ることが可能となるとともに、共同研究参画者は、河道掘削断面の計画の策定業務、維持管理計画の策定業務（河道内植生管理）におけるより高度な提案、業務の効率化が可能となる。

< 共同研究の内容 >

共同研究の内容（項目）

- (1) 植生動態モデルの高度化のための二次元河床変動計算モデルの改良
 - ① 河床変動モデルの改良
 - ② スーパーコンピュータを用いた長期間計算手法の開発
- (2) 二次元河床変動計算を組み込んだ植生動態モデルの改良
 - ① 植生動態モデルの改良
 - ② スーパーコンピュータを用いた長期間計算手法の開発
- (3) UAVを用いた地形・植生観測技術の開発
 - ① 長距離区間の植生動態計測技術の開発
 - ② 空間情報化技術の開発
- (4) 植生観測データを用いた植生動態モデルの検証・データ同化技術（改良型植生動態モデル）の開発
 - ① 植生動態空間データを用いた計算検証手法の開発
 - ② 植生動態空間データの計算条件への取り込み手法の開発
- (5) 改良型植生動態モデルの簡易化に関する研究

3. 実施期間 平成28年6月（予定） ～ 平成30年12月

4. 共同研究の内容及び研究分担

研究の分担

研究項目	研究細目	研究分担※1		年次計画		
		土研	共同研究者	28年度	29年度	30年度
(1) 植生動態モデルの高度化のための二次元河床変動計算モデルの改良	① 河床変動モデルの改良	○	◎	←→		
	② スーパーコンピュータを用いた長期間計算手法の開発	◎	○		←→	→
(2) 二次元河床変動計算を組み込んだ植生動態モデルの改良	① 植生動態モデルの改良	○	◎	←→		
	② スーパーコンピュータを用いた長期間計算手法の開発	◎	○		←→	→
(3) UAVを用いた地形・植生観測技術の開発	① 長距離区間の植生動態計測技術の開発	○	◎	←→	←→	→
	② 空間情報化技術の開発	◎	○	←→	←→	→
(4) 植生観測データを用いた植生動態モデルの検証・データ同化技術の開発	① 植生動態空間データを用いた計算検証手法の開発	◎	○		←→	→
	② 植生動態空間データの計算条件への取り込み手法の開発	◎	○		←→	→
(5) 改良型植生動態モデルの簡易化に関する研究	① 改良型植生動態モデルの簡易化に関する研究	◎	○		←→	→
(6) とりまとめ	① とりまとめ	◎	○		←→	→

※ 1 研究分担に主従がある場合は、主として分担する場合は◎印、従として分担する場合は○印とする。

5. 共同研究に参画する条件及び募集する参加者数等

< 参画条件 >

- ① 二次元河床変動計算に関する業務実績
- ② 植生動態モデルの業務実績
- ③ UAVを用いた観測技術業務実績
- ④ 河川環境管理に関する業務実績

上記のいずれかを有し、本共同研究に必要な人員の配置及び必要な費用を分担できること

< 参加者数 >

5者程度を想定

< 参加者の選定方法 >

書類審査、必要に応じて個別ヒアリングを行い選定する。

6. その他

申請書を提出する前に下記担当者までご連絡下さい。

7. 担当者

水環境研究グループ 河川生態チーム

萱場・傳田 (TEL: 029-879-6775)